

森林博物館の建物について

青森市森林博物館は、昭和53年(1978)の市制施行80周年記念事業の一つとして、旧青森大林区署(のちの青森営林局)の建物を、全国初の森と木を考える博物館として整備したものです。昭和57年(1982)に開館しました。

青森大林区署庁舎は、明治41年(1908)に、津軽地方や下北地方の豊富なヒバ材を使用したルネッサンス式洋風木造建物として建設された、青森市を代表する建物の一つです。庁舎の設計には文部技師久留正道、工事主任は山林技師の岡本直二郎、建築は土木建築業の成田文吉が担当しました。建物の周辺には青森貯木場や製材所があり、翌明治42年(1909)には津軽森林鉄道も完成するなど、青森県の林業の中心地としてにぎわいました。

その後、業務の拡大により大正10年(1921)以降には次々に増築され、さらに昭和9年(1934)には玄関にある車寄が設けられました。その間、大正13年(1924)の官制改組により青森営林局と改称されました。この庁舎は70年以上にわたり使用されました。昭和54年(1979)に新庁舎建替に伴い、青森市が建物を譲り受け、本館部分の保存や前庭等の整備を経て、昭和57年(1982)11月に、森林博物館として開館しました。

森林博物館の建物は、青森市の有形文化財として平成16年(2004)に指定されました。



昭和43年(1968)撮影の青森営林局庁舎
「国有林の治山」より転載

▼森林鉄道機関車



前庭西側にある別館(第7展示室)では、実際に下北半島の森林鉄道で活躍した機関車を展示しています。この機関車は、映画「飢餓海峡」(昭和40年/1965)のロケでも使用されました。※客車部分は津軽森林鉄道です。

スタンプ欄



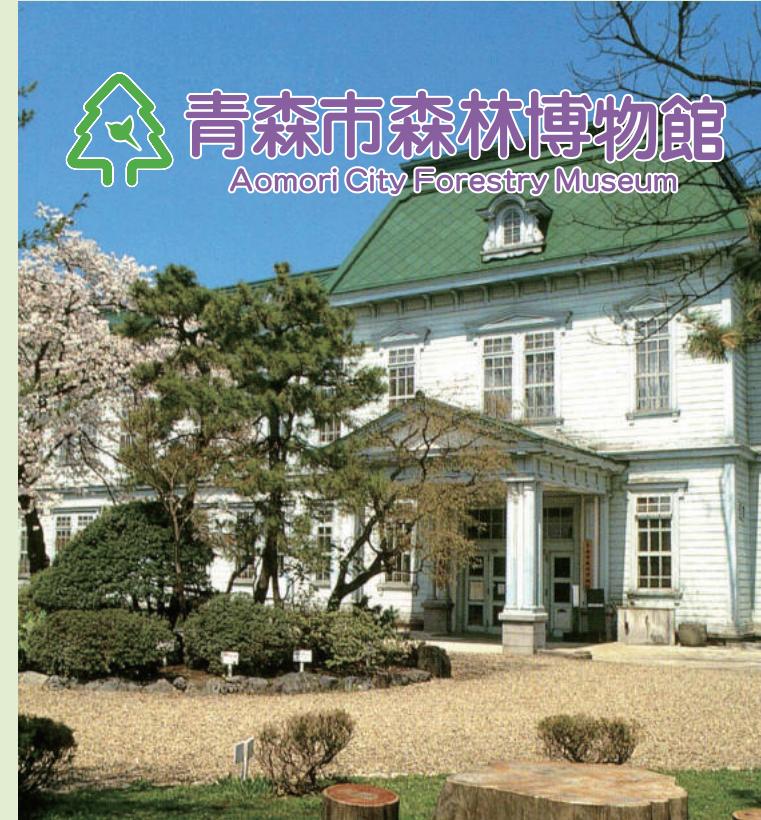
案内図



新青森駅から青森駅まで
市営バス⇒古川方面・青森駅行 バス停・森林博物館前下車
青森駅西口より徒歩10分
市営バス⇒野木和田地・後潟方面行 バス停・森林博物館前下車
(自家用車・バス、駐車できます)

青森市森林博物館
指定管理者 青森県森林組合連合会

青森市森林博物館
Aomori City Forestry Museum



観覧料

個人	一般	250円
	高校生・大学生	130円
団体 (20人以上)	一般	130円
	高校生・大学生	70円
	中学生以下・70歳以上	無料

使用料

さまざまな活動にご利用下さい。

午前 9時～12時	午後 1時～4時	午前 9時～午後 4時
第1・2学習室	640円	640円
第3学習室	890円	890円

(暖房期間11月～4月までは5割増しとなります)

開館時間

- 4月1日から10月31日まで 午前 9:00～午後 5:00
- 11月1日から3月31日まで 午前 9:00～午後 4:30

休館日

- 毎週月曜日（祝日に当たるときは、翌日）
- 年末年始（12月28日～1月4日）

〒038-0012 青森市柳川2丁目4-37
TEL 017(766)7800 FAX 017(766)7803



1F

森林博物館は、郷土・青森を軸に、緑の大切さや森林と人間との結びつきについて、子どもたちからお年寄りまで学習できる展示となっています。

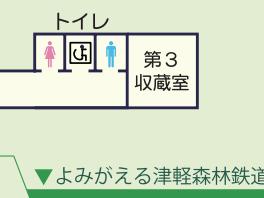
「森と仲間たち」「木と暮らし」「森を育てる」の3つの展示室では、自然のしくみや、緑のある生活と文化、森を守り育てる林業の仕事などを紹介しています。

また、日本初の森林鉄道をテーマとした「よみがえる津軽森林鉄道」の展示室を、平成28年(2016)7月に開設しました。

なお、屋外の第7展示室に展示している「幹部視察用客車」「運材台車」「六郎隧道扁額」の3点が「我が国初の森林鉄道『津軽森林鉄道』遺構群及び関係資料群」として、平成30年(2018)5月に「林業遺産」(日本森林学会)に認定されています。



△森を育てる



2F

▼特別室（旧宮林局長室）



2F

山の林業や現地調査と深い関わりをもつ「雪とスキー」の展示室では、風雪の特徴やスキ一年表、三浦敬三・雄一郎親子など本県ゆかりの人物、一本ストックなどの実物展示をはじめ、八甲田山の雄大な樹氷の造形美などを紹介しています。

「青森とヒバ」の展示室では、日本三大美林のひとつ青森特産ヒバの生態や歴史等を紹介しているほか、家具類などを展示しています。

また、映画「八甲田山」(昭和52年/1977)のロケにも使われた、明治の雰囲気を残す旧青森宮林局長室を、特別室として復元展示しております。

このほか、様々な活動を行う場所として、3つの学習室を使用することができます(有料)。

緑の、樹々ゆたかな前庭の御散策をお楽しみ下さい。